

## 2-3 関東地方における最近の微小地震活動

東京大学地震研究所 地域センター地震室

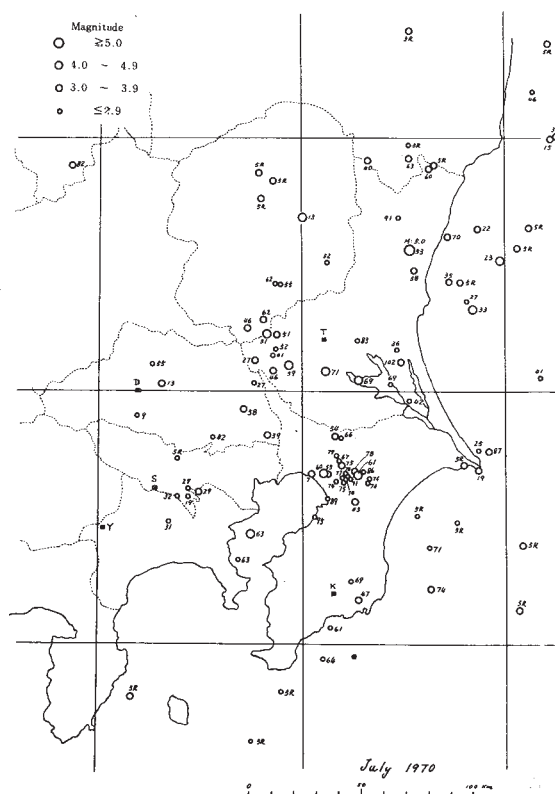
当室では関東地方における微小地震活動を監視する目的で、本年2月より当研究所堂平微小地震観測所の協力を得て、同所の筑波(T)、堂平(D)、清澄(K)、城山(S)の各点および山北臨時観測点(Y)の高感度地震計記録のよみとりを定常的におこなってきた。(城山のみ堂平観測所が分担)、さらに7月からはこれらのデータを地震予知観測センター、計算機室のIBM 360/40で処理して震源、Mを決定する仕事を約1週間の遅れで継続してきた。

第1~3図はこうして求められた本年7~9月の関東地方の震央分布図である。数字は深さ(km)で、5Rと書いたのは深さが正確に求められず5kmと仮定して震央を求めたものである。100kmより深い地震は記入しなかった。Mは振動継続時間から求めた。

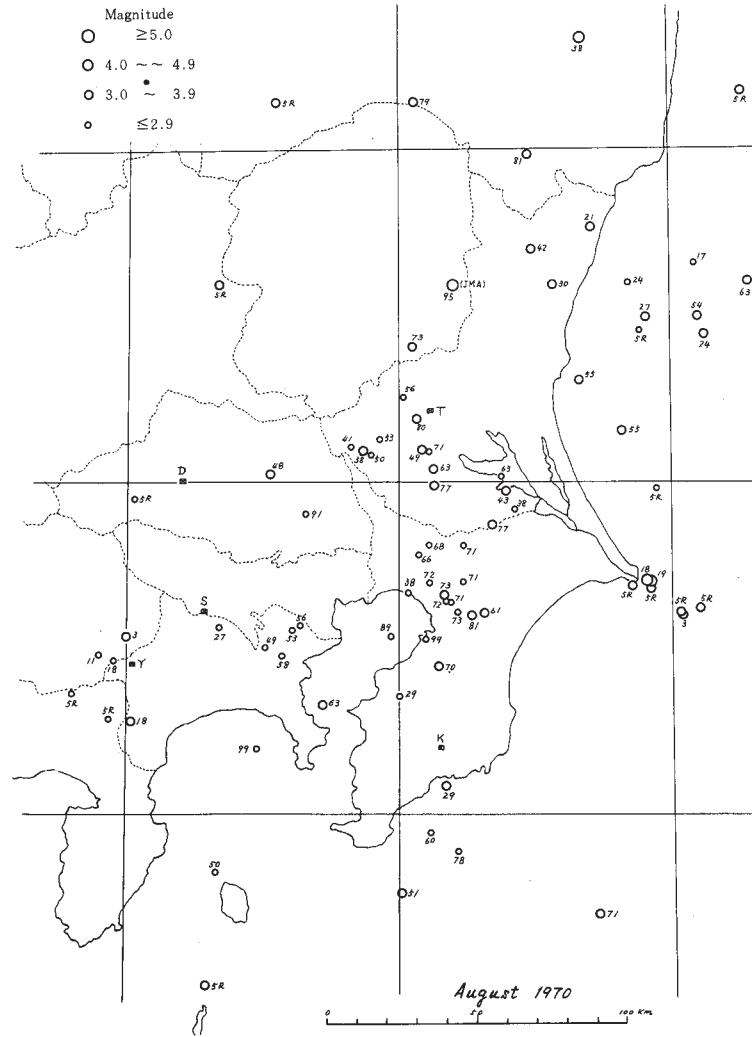
震源決定の能力は観測網の形に影響され、東京湾周辺ではM $\approx$ 2.5位まで正確に求まるが、関東地方北部や東沖の地震はM $\approx$ 3位以上でないと決まらず精度も悪い。またM $\geq$ 4の地震は大きすぎてSがよみにくくなるので必ずしも精度はよくない。

震源分布は過去に気象庁のデータから求まっているものと大差なく、茨城県南西部、千葉付近および鹿島灘で定常的に発生している他、銚子付近、神奈川県東部、房総半島南沖、丹沢方面も時々活発化している。9月に入って埼玉県東部に浅い地震が若干発生していることが注目される。相模湾には浅い地震が全く発生していない。

第 1 図



第 3 图



第 2 图

